

# 初期研修の概要

- (1) 救命救急センターの救急科医師指導の下、1次－3次救急の経験（通年救急当直）が豊富であり、一般的疾患から特殊疾患までプライマリーケアの研修環境に恵まれている。
- (2) 内科が全科（総合内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・血液内科・内分泌糖尿病内科・腎臓内科・神経内科・リウマチ膠原病科）揃っており、広範な研修が可能
- (3) 通年の小児科当直業務（救命救急センター）により小児科プライマリーケアの研修環境も充実
- (4) 2年次の選択科枠は、内科系・外科系を含むほぼ全診療科（29診療科）が研修可能であり、幅広い初期研修選択が可能
- (5) 臨床研修指定病院、日本内科学会認定内科専門医教育病院、日本外科学会専門医修練施設等24の教育指定・認定を持ち、地域がん診療連携拠点病院指定等、18の診療指定病院でもある。
- (6) 一般508床（ICU6床、CCU2床を含む）、精神50床、感染症4床、計562床を有しており、医師総数149名、年間延べ入院患者数約15万人、年間延べ外来患者数約32万人の西多摩地域の基幹病院
- (7) 初期臨床研修医は1年次13名（単独型9名、東京医科歯科大学協力型4名）、2年次13名（単独型9名、東京医科歯科大学協力型3名）計25名が在籍
- (8) 構内医師職員住宅（CASA DOCTORAL）が完備され、付帯設備も充実しており、研修に専念できるように配慮している。臨床研修医は優先的に入居可能
- (9) 毎月、招聘感染症専門医による講義

## 必修科

### 【内科系】

9内科（総合内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・血液内科・内分泌糖尿病内科・腎臓内科・神経内科・リウマチ膠原病科）が揃っており、各科学会認定指導医の下、大学病院と同等の内科全領域の研修が可能です。

1年次は経験・研修の幅を広げる意味から2科併診（2ヵ月単位）の形態で3グループ、6内科を研修します。2年次に選択で希望する内科の研修を追加することも可能です。

内科入院は全入院患者数の約45%を占め、豊富な症例数から経験すべき症例を中心に担当するため充実した研修（基礎疾患から高度医療まで）が可能です。また、救急当直を通して内科のプライマリーケア研修環境も整っており研修医から好評を得ています。

## 【救急科】

救急科医師6名が在籍し、1次～3次救急に対応しています。

西多摩地区（青梅市、羽村市、福生市、あきる野市、奥多摩町、瑞穂町、日の出町、檜原村）で唯一の救命救急センター。東京都内のみならず、埼玉県（入間市、飯能市）や山梨県（北都留郡小菅村、丹波山村）からも救急車を受け入れています。西多摩地区は、人口約39万人の地域で、ほとんどが山岳地帯です。地区内に急性期病院が少ない一方、療養型病院・介護老人保健施設・特別養護老人施設等が多いのが特徴です。また、直近の救急センターまで救急車で30分以上かかるため、救急搬送において総合病院併設型がある当センターへの依存度が年々高くなっています。平成29年度は、年間約7,700人の救急患者を扱い、約3,800台の救急車を受け入れています。

当院における初期臨床研修では、救急科は1年次と2年次に各1ヶ月必修です。開院時間内の救急車搬送患者と救急科入院患者を担当します。救急科入院症例は、多発外傷や薬物中毒、蘇生後脳症、熱傷が主です。

加えて2年間を通じた救急科医師指導下での救急当直（1・2年次各1名、少なくとも1回/週）を行っており、当院の初期臨床研修の特徴でもあります。救命救急センター受診患者全員の初療を担当し、自力で問診し、身体所見を取り、必要であれば検査をします。常に救急科指導医がそばにいますので、いつでも相談可能で、指導を受けることができ、経験すべき症例を含めプライマリーケアの十分な経験と研鑽の基となっています。

救急科医師による ACLS&外傷初期診療講習を含む講義を月に3回約1時間実施しています。ACLS用人形、訓練用 AED、除細動付きモニター、気管挿管練習用人形、中心静脈穿刺練習人形が揃っており、使用されていない病室を“スキルラボ”にして心肺蘇生講習やトレーニングを行っています。実際に使用している病室と同じ構造ですので、入院患者への緊急対応を正確にシミュレーションすることができます。狭い病室で心肺蘇生を確実に行うことの難しさが実感できます。

## 【地域医療】

西多摩保健医療圏内の病院、診療所で研修を行い、高齢化社会と地域医療の現状が研修できます。

## 選択必修科

### 【外科系】(外科・胸部外科・整形外科、2～3ヶ月)

**外科**：年間の総手術件数は約900件～1,000件で各領域の癌や動脈瘤等の血管外科等頸部から下肢まで幅広く担当します。モットーは「確実でしかも先進技術を取り入れた外科」です。活気に満ちた毎日であり、やる気のある臨床研修医を歓迎します。

**胸部外科**：冠動脈バイパス術や人工血管置換術、心臓弁膜症手術等を年間約80件～90件、肺癌、胸腔鏡下手術の肺手術等を年間約60件～70件行っています。

**整形外科**：救急で多く目にする骨折・脱臼などの外傷や、腰痛・頸部痛四肢体幹の疼痛、しびれといった「運動器」の外傷、変性、腫瘍、骨系統疾患などを治療対象とします。当院でも老若男女、多彩な疾患を対象とします。

東京医科歯科大学整形外科と連携、脊椎外科、手外科専門班スタッフの指導のもと、救急外傷の現場、超高齢化社会における「健康寿命の延伸」を目的とする外来、入院診療の現場を研修してください。手術は、大腿骨近位部骨折、橈骨遠位端骨折などの外傷や、脊椎脊髄手術が中心で、年間500～600件行っています。救急も含めた、基本的な外来診療手技の習得（四肢、脊椎の診察方法、画像撮影指示・読影法、関節穿刺、関節内注射など）や四肢外傷の初期治療方法を中心に指導します。

### 【麻酔科】

麻酔科管理症例数は年間約 2,100 例です。小児外科を除く、ほとんどの科の症例を経験することができます。地域的に高齢者の症例が多く、合併症を有する重症例が多いのが特徴です。また、西多摩医療圏の中核病院であり、緊急手術もたくさんあります。1年次は主に気管内挿管と全身麻酔の管理、2年次には硬膜外麻酔や脊髄くも膜下麻酔を中心に研修を行います。

### 【小児科】

西多摩地区で唯一の小児休日全夜間診療救急病院です。24 時間 365 日、1 次～3 次救急対応をしており、1 年次より全員小児科救急に準夜当直として参加しプライマリーケア研修を行っています。当初より研修医が積極的に取り組んでくれており好評です。研修では、ほとんどの common disease や急性疾患を経験できます。また、地域の中核病院であることから相当数の教科書に載るような典型症例が混ざっておりモチベーションを保てます。お産は年間約 800 余件あり、新生児・未熟児医療も研修できます（2 年次）。

また、小児科専門外来も東大小児科からの応援で充実を図っています。毎週金曜日の朝にクルズスを設け、小児科診療の初期研修オリエンテーション、レクチャーや救急外来で経験した症例の検討・勉強を行い、年間を通して小児科学の研修を継続しています。

### 【産婦人科】

**産科**：分娩件数は年間約 700 例、小児科と連携しハイリスク妊娠にも対応しています。正常分娩から異常分娩まで幅広く研修ができます。

**婦人科**：子宮筋腫や卵巣嚢腫等良性疾患から悪性腫瘍まで幅広く治療し、年間手術件数は腹腔鏡下手術を含め 400 件を超えます。東京都の周産期連携病院、がん診療連携拠点病院として、産科・婦人科ともに充実した研修体制が整っています。

### 【精神科】

閉鎖病棟 50 床（うち保護室 4 床）で重症例を含めさまざまな疾患に対応しています。特に総合病院の特徴から精神疾患と身体疾患の総合医療が可能です。

＜研修プログラム例＞

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	呼吸／膠原		循環／腎内		消化／血液		救急	選択必修①			選択必修②	
2年次	救急	地域	選択必修③		選択科（1科：最大3ヶ月）							

\* 1年次の内科は、この他に、神内／内分泌糖尿の組合せがあります。

\* ローテーションは研修医間で調整し決定します。

\* 1年次5ヶ月、2年次10ヶ月のうち、選択必修科のうち少なくとも3科を計5ヶ月以上研修しなければなりません。